



2014 年 6 月 10 日

みなさん、こんにちは。

今回の「博物館だより」は、当館で開催中の企画展・郷土作家シリーズ「生誕 100 年 池内艸舟/没後 10 年 山口南艸展-かな書の心を紡いで-」(~7 月 6 日まで)の関連イベントとして 6 月 1 日(日)に実施した「ギャラリートーク」の様子と、ひとこと NEWS「トライやる・ウィーク」についてお伝え致します。



ギャラリートーク



6 月 1 日(日)に書道草心会理事長・^{さかもとせんしゅう}阪本千楸氏によるギャラリートークが行われました。ギャラリートークでは実際に展示されている作品を鑑賞しながら、展示作品や明石にゆかりのある二人の書家に対する阪本氏の思いが伝えられました。

まず鑑賞した作品は、入口すぐに展示されている池内艸舟氏の『上弦の月』で、阪本氏は「艸舟先生がこういった(定型を破る)かな書を書かれるのは、本当に意外」ということです。

また「絵を描くことも得意で、とても器用だった」という山口南艸氏。『あぢさゐ』という作品では「南艸先生の遊び心、満載」で華やかな作品です。この作品の他に南艸氏の 8 尺×8 尺(223.5cm×223.5cm)の紙面に『万葉集・志貴皇子の歌』の一首をのせた大作や、「この作品を見ているとホッとすると」という昭和 58 年の日展出品作『味酒』など、様々な作品が展示されています。



書道の展覧会と聞けば、ただ白い紙に書かれた作品が並んでいると思われるかもしれませんが、この展覧会ではその他に「木材」を利用したものや「屏風」、「唐紙」、「扇面」、「紺紙」に銀泥(純粹もしくはそれに近い銀を粉末にして膠水で溶かした絵具)で書かれたものなど本当に多種多様。実際に生で見ると 1 点 1 点の優美さに驚かすはず。

池内艸舟氏、山口南艸氏と親交のあった阪本氏ならではのギャラリートークは、書道初心者でもその素晴らしさに引き込まれてしまいます。ギャラリートークの後にじっくりと図録片手に作品鑑賞をすると、また新しい楽しみ方が出来るのではないのでしょうか。



ひとこと NEWS<トライやる・ウィーク>

~ギャラリートークのご案内~

※要観覧券・当日自由参加

① 6 月 14 日(土) ② 6 月 21 日(土) いずれも 13 時 30 分~

講師: ① 倉橋奇艸氏(書道草心会副理事長)

② 阪本千楸氏(書道草心会理事長)、倉橋奇艸氏

6 月 2 日(月)~6 日(金)まで明石市内の中学生 10 名が「トライやる・ウィーク」で文化博物館に仕事体験に訪れました。普段は体験できない学芸員の仕事や受付業務などを学び、とても充実した 5 日間を過ごすことが出来たことでしょう。

詳しい展覧会情報は

当館HPをご覧ください。

<http://www.akashibunpaku.com>

今回の「博物館だより」をお楽しみ

